



CONTENTS

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ
改訂4版2018のご案内
- 講師派遣のご案内
- 【予告】農薬科学研究奨励金のご案内

令和2年度 第3回常任評議員会議事録

日 時：令和2年12月5日(土) 13:00～17:00

方 法：Web会議

出席者：出席者18名（含第46回大会組織委員会委員長，実行委員長，組織委員），欠席者1名

議事：

- I. 令和2年度第2回常任評議員会議事録の確認，メール審議議事録の確認（九州大学大学院農学研究院の教員公募，弔意内規の改定，終身会員2名の追加，デザイン研究会委員長任期延長，第46回大会の開催日程変更の可否）

II. 経過報告および議案

1. 第46回大会準備状況報告

- ・総会，学会賞授賞式，受賞者講演，特別講演，一般講演，懇親会・祝賀会の開催方法について報告があった。
- ・要旨集の配布方法について協議した。
- ・一般講演の配信期間を協議した。
- ・企業展示，ランチョンセミナーについて報告があった。
- ・学生優秀発表賞の授与は行わないことが報告された。

2. 財務関係

- ・会計報告
収支予算管理報告（令和2年1月1日から11月20日まで）があった。
- 令和3年度予算案について報告があった。
- ・会費値上げシミュレーションについて報告があった。

- ・令和2年度学術小集会収支予算案について報告があった。

3. 会則・規定の改定

会費の変更案に伴う会則の変更について議論した，JPS冊子体廃止に伴う編集規定の改定について議論し，評議員会に諮ることにした。

4. 編集委員会

- ・JPS冊子体廃止に伴う投稿規定・投稿細則の改定について議論し，評議員会に諮ることにした。

5. 選挙管理委員会

- ・第2回，第3回選挙管理委員会議事録について報告があった。
- ・選出された次期評議員を確認し，会長指名の副会長2名の除外とそれに伴う次点者2名の繰り上げについて確認した。

6. 学術・技術支援委員会

- ・活動報告（農薬情報検索サイトの開設，残留分析セミナーの中止，講演要旨の更新等）があった。

7. 農薬科学研究奨励金

- ・審査方法（候補者の関係者は審査議決に加わらない等）の報告があった。

8. 将来計画委員会からの報告・提言（会費の値上げはやむを得ないが，会員サービスの工夫が必要。オンラインでの活動を積極的に行う。国際的な取り組み，一般向けの取り組みも必要。）があった。

9. 学会賞受賞者選考委員会

- ・受賞者選考過程と結果について，報告があった。

10. 日本植物防疫協会への業務委託契約について，契約書の最終版と今後のスケジュールについての報告があった。

11. 学術小集会委員の変更について，報告があった。

12. 技術士育成推進委員会による技術士セミナーの開催について，報告検討した。

13. 昆虫科学連合，植物保護科学連合について，国際昆虫学会議の日本開催が2024年になったこと，2020年度の植物保護科学連合シンポジウムが中止になったとの報告があった。

14. 一般社団法人日本農学会について，報告（2/13総会をZoomで開催，日本農学賞候補に応動昆が推薦）があった。

15. 研究会の後援・協賛について、報告（第48回構造活性相関シンポジウムに協賛）があった。
16. 入退会の報告があり、正会員2名、学生会員1名の入会が承認された。
17. その他
 - ・来年度大会開催地について、報告があった。
 - ・ニュースレターの電子化と印刷物の配布方法について、報告があった。
 - ・国際植物防疫年2020 オフィシャルサポーターへの申請について承認した。
 - ・書類の発番の統一について協議した。

令和2年度 第4回常任評議員会議事録

日 時：令和3年2月6日(土) 13:00～17:25

方 法：Web会議

出席者：出席者18名（含第46回大会組織委員会・組織委員2名）

議事：

- I. 令和2年度第3回常任評議員会議事録の確認
メール審議議事録の確認（農薬生物活性研究会予算案確認）
- II. 経過報告および議案

1. 第46回大会準備状況報告
 - ・受賞者講演，特別講演，一般講演，シンポジウム，企業セミナー，技術士セミナーの開催，講演要旨について報告があった。
 - ・総会，学会賞授賞式について協議した。
 - ・評議員会議事次第案，スケジュール案について協議した。
 - ・総会資料案，スケジュール案について協議した。
2. 財務関係
 - ・会計報告
令和2年度決算の報告があった。
令和3年度予算案の報告があった。
 - ・会費値上げシミュレーションについて報告があった。
 - ・外部監査について報告があった。
3. 細則の改定について報告があった。
4. 編集委員会
 - ・日本農薬学会誌第46巻第1号，JPS Vol. 46, No. 1について報告があった。
 - ・インパクトファクター，引用数，ダウンロード数等について報告があった。
5. 学術・技術支援委員会
 - ・活動報告（第2回委員会開催，農薬について知ろう Web サイト，問答あれこれ旧版の Web 公開，講師派遣，残留分析セミナーの開催方針の検討，講演要旨データベース更新）があった。

6. 会長推薦次期評議員，顧問について協議した。
7. 農薬科学研究奨励金の二次審査について，審議を行い，申請5件中3件を採択した。
8. 日本植物防疫協会への業務委託について1/1より業務委託が開始されたとの報告があった。
9. 三学会会長懇談会について報告があった。
10. 技術士セミナーの大会における開催について報告があった。
11. 昆虫科学連合について報告（2024年国際会議京都で開催，組織委員に塩月副会長）があった。
12. 一般社団法人日本農学会について報告があった。
13. 入退会の報告があり，正会員9名，学生会員14名の入会が承認された。
14. その他
 - ・農薬残留分析研究会からの相談について協議した。
 - ・クラウドと Web 会議システムについて協議した。
 - ・宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター共同利用・共同研究拠点申請に関する要望書作成依頼について協議した。
 - ・上山終身会員ご案内の本のホームページへの掲載について協議した。

令和2年度 第5回常任評議員会議事録

日 時：令和3年3月7日(日) 15:00～16:45

方 法：オンライン，対面会議（農工大・第二会議室）

出席者：出席者26名（含第46回大会組織委員会委員長・組織委員1名，次期常任評議員8名）

議事：

- I. 令和2年度第4回常任評議員会議事録の確認
- II. 経過報告および議案
 1. 第46回大会準備第46回大会準備状況について
 - ・名誉会員推挙式，学会賞授賞式，特別講演，受賞者講演，一般講演，シンポジウムについて報告があった。また，事前登録者350名，一般講演72題との報告があった。
 - ・第47回評議員会資料及び進行について協議した。
 - ・第46回通常総会資料及び進行について協議した。
 2. 財務関係
 - ・会計報告
収支予算管理報告（令和3年1月1日から2月28日まで）があった。
令和3年度予算案について報告があった。
内部監査の内容について報告があった。
 3. 編集委員会
 - ・第46回編集委員会の開催について協議した。
 4. 学術・技術支援委員会
 - ・農薬について知ろう Web サイトの更新や今後の運

営方法について報告があった。

5. 農業科学研究奨励金
審査メモの引継ぎ（利害関係者の審査への関わりについて）と、来年度採択課題の承認条件、審査及び交付日程について報告があった。
6. 2019-2020年度専門委員会の委員の変更が報告され、編集委員会、財務委員会の次期委員長が承認された。
7. 2019-2020年学術小集会委員長について承認され、農業環境科学研究会と農業デザイン研究会の委員長の任期が1年延期されたことが確認された。
8. 一般社団法人日本農学会について報告（日本農学賞に応募した東大・石川氏が選出、常任委員担当終了）があった。
9. 入退会の報告があり、正会員1名、学生会員2名、海外会員1名の入会が承認された。
10. その他
 - ・クラウドとWeb会議システムについて協議した。
 - ・次期運営体制について塩月次期会長から報告があった。次期常評が紹介され、次年度の常評日程が報告された。
 - ・名誉会員からの寄付について協議した。
 - ・橋床先生を追悼・顕彰する会への寄稿依頼が会長よりあった。

日本農業学会第47回評議員会議事録

日 時：令和3年3月8日(月) 10:40～12:15

方 法：オンライン、対面会議（農工大・第二会議室）

出席者：夏目会長、塩月副会長、大山副会長、日野副会長、内田監事、佐藤監事、評議員67名、委任状14通（合計81名）

評議員会成立の確認

出席並びに委任状を提出した評議員（81名）が定足数（34名、評議員総数101名の1/3以上）に達していることを確認したのちに会則第29条に則り夏目会長を議長として議事を進行した。

議事

1. 令和2年度会務報告
 - ・第46回通常総会資料および第47回評議員会資料に基づき、総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目について委員長または担当常任評議員が報告を行い、質疑を受けたのち、承認された。
2. 役員選挙報告
 - ・第47回評議員会資料に基づき、坂本選挙管理委員長が第24期日本農業学会役員選挙結果を報告し、承認された。
3. 令和2年度会計報告
 - ・第46回通常総会資料に基づき、収支決算について担当常任評議員が報告を行ったのち、佐藤監事か

ら、学会並びに学術小集会の活動が適正であり、収支決算の内容が的確であったとの業務・会計監査結果が報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、承認された。

4. 令和3年度事業計画
 - ・事業計画案および収支予算案について担当常任評議員が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。
5. 会則の改定案の総会への付議の承認
 - ・会則第8条（会費）の改定案について、夏目会長から会費値上げシミュレーションをもとに説明があり、正会員の会費の値上げと団体会員・購読会員の会費の値下げが原案の通り承認された。
6. 細則・編集規定・投稿規定改定案の承認
 - ・細則第8条（大会開催）、英文誌冊子体廃止に伴う編集規定、投稿規定の改定案について、夏目会長から説明があり、原案通り承認された。
7. 名誉会員推挙候補者の承認
 - ・名誉会員として安藤哲氏、中村幸二氏の総会への推挙が承認された。
8. 終身会員の承認
 - ・終身会員として浅利健二氏、上山功夫氏が推薦され、承認された。
9. 会長指名による役員の承認
 - ・会長指名による新役員について、原案の通り承認された。
10. 令和3・4年度日本農業学会常任評議員の承認
 - ・令和3・4年度日本農業学会常任評議員について、原案の通り承認された。
 - ・塩月次期会長から就任の挨拶があった。
11. 第47回大会について
 - ・第47回大会を令和4年3月上旬に岡山大学（岡山市）において開催する事が承認された。
 - ・神崎次回大会委員長から挨拶があった。
12. その他
 - ・英文誌の発行日について質問があった。
 - ・名誉会員名簿の修正について要望があった。
 - ・日本植物防疫協会への業務委託契約について総務の負担増とならないかとの質問があり、次期常評では総務の人数を増やすとの回答があった。

第46回通常総会議事録

日 時：令和3年3月8日(月) 13:30～14:45

方 法：オンライン、対面会議（東京農工大学講堂）

会則24条に則り夏目会長を議長として議事を進行した。

議事：

- 令和2年度事業報告および決算報告
 - ・総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目、細則・編集規定・投稿規定の改定について各担当者が報告を行った。次いで、収支決算について会計担当者が報告を行ったのち、内田監事から学会並びに学術小集会の活動が適正であり、収支決算の内容が的確であったとの業務・会計監査結果が報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、承認された。
- 終身会員および顧問の推薦
 - ・第47回評議員会において終身会員2名および顧問2名が承認された旨報告があった。
- 令和3年度事業計画および収支予算
 - ・事業計画案および収支予算案について各担当者が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。
- 会則の改定
 - ・会則第8条（会費）の改定について夏目会長が説明を行い、質疑を受けたのち、正会員の会費の値上げと団体会員・購読会員の会費の値下げが原案の通り承認された。
- 名誉会員の承認
 - ・名誉会員として安藤哲氏、中村幸二氏が推挙され、承認された。
- 令和3・4年度日本農薬学会役員の報告
 - ・令和3・4年度日本農薬学会役員選挙結果と会長指名役員が報告された。
 - ・塩月次期会長から挨拶があった。
- 第47回大会
 - ・第47回大会を令和4年3月上旬に岡山大学（岡山市）において開催する事が第47回評議員会で承認されたことが報告された。

資料

I 会務報告

1. 総務関係報告

1) 会員異動（令和2.1.1～令和2.12.31）

	令和元年 12月31日 現在	令和2年12月31日現在			増 減 (△減)
		国 内	国 外	計	
名誉会員	20	19	1	20	0
終身会員	56	54	0	54	△2
正 会 員	955	917	9	926	△29 ^a
学生会員	68	42	0	42	△26 ^b
維持会員 (口数)	35 (69口)	35 (69口)	0	35 (69口)	0 (0口)
団体会員	78	75	0	75	△3
購読会員	20	4	12	16	△4

^a入会者：56名，退会者：27名，会費未納者：58名

^b入会者：21名，退会者：32名，会費未納者：15名

2) 会誌の発行

発行および頒布部数（令和2.1.1～令和2.12.31）

誌-巻-号	農薬誌-45-1	JPS-45-1, 2	農薬誌-45-2	JPS-45-3, 4
発行部数	1350	1350	1350	1330
会員頒布	1163	1163	1163	1158
一般購読	16	16	16	16
寄 贈	23	23	23	23
広告・PR	10	10	10	10
事 務 用	2	2	2	2
保 存 用	5	5	5	5
計	1214	1214	1214	1214
残存部数	136	136	136	116

3) 日本農薬学会第45回大会

- 第45回大会：R2.3.8～R2.3.10に開催予定であった第45回大会は、大阪府立大学における開催は中止となり、要旨集を配付することによるみなし開催となった。
- 第45回通常総会（R2.4.24～R2.4.30）：メール会議により、令和元年度会務報告、会計報告、会計監査報告、終身会員の推薦の報告が行われ、令和元年度事業報告および決算、令和2年度事業計画および収支予算（案）、会則第14条並びに第37条の改定が承認され、日本農薬学会大会第46回大会（令和3年，東京都府中市，東京農工大学）の開催が報告された。

4) 役員会の開催

- 第47回評議員会（R3.3.8）：令和2年度会務報告、会計報告が行われ、令和3年度事業計画および収支予算（案）、会則改定を総会に付議することが承認され、規定の改定、日本農薬学会大会第47回大会（令和4年，岡山市，岡山大学）の開催が承認された。名誉会員の総会への推挙が承認され、終身会員，顧問，会長が推薦する役員が承認された。
- 常任評議員会：5回（R2.4.15, 7.18, 9.12, 12.5, R3.2.6）オンライン，1回（R3.3.7）現地とオンラインで開催。

5) 専門委員会など

- 第47回編集委員会：R3.3.8に開催。学会誌への投稿状況，JPSのインパクトファクターの推移を報告。JPSタイトルページのリニューアルと冊子体の廃止についての検討。
- 常任編集委員会：R2.1.11, R2.7.18に開催。和文誌，英文誌の掲載内容，論文賞の推薦，JPSタイトルページのリニューアルについて検討。
- 日本農薬学会賞受賞者選考委員会：R2.6.14および9.21に開催。メール会議5回。日本農薬学会賞，日本農学進歩賞の選考について検討。

(4) 財務委員会

1. R2.4.2, 6.4, 11.11にメール会議を開催。
国際会議の渡航費補助申請の審査, 令和2年度予算進捗の確認, 令和2年度決算・令和3年度予算の検討と提案。
2. 学術小集会活動経費補助申請の検討。
3. 学会の継続的適正運営に関わる経費面のシミュレーションの実施。
4. 外部監査 (R2.8.4, R3.2.9) の実施に対応。
- (5) 第46回大会組織委員会: R2.1.20, 2.7, 7.18, 9.8, 10.29, 11.18, 12.16, R3.1.13, 1.27, 2.24に開催。
- (6) 将来計画委員会: R2.5.9~5.27にメール会議を開催。
会員数の減少, 財務状況など現状を解析するとともに, 新型コロナウイルス感染拡大と予防の状況を考慮した対応策を検討した。研究会・シンポジウムのオンライン開催や過去のアーカイブやコンテンツの提供など新しい活動による新規会員の獲得と収入増, 収入に見合った事業や会員へのサービスの説明, 学会運営への会員の意見の反映, 学会誌や大会での国際化, 農業研究に関する情報提供をより充実させる社会的ミッ

ション等について議論した。

- (7) 学術・技術支援委員会: R2.6.6, 12.19に開催。メール会議数回。「農業について知ろう」Webサイトの運営・保守管理・広報, 書籍「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版」補遺資料更新版の作成, 残留農薬分析セミナー・講師派遣事業, 学会ホームページ運営等の活動方針について検討。
- (8) 農業科学研究奨励金交付者審査会議: 一次審査 (R2.12.11~R3.1.18メール会議), 二次審査 (R3.2.6)。
- (9) 学術小集会委員長と常任評議員との意見交換: R2.9.12に開催。活動報告・予定, 会員増に向けた取り組み等について意見交換。
- (10) 三学会長懇談会: R2.12.5に開催。(一社)日本植物防疫協会への業務委託契約の最終確認と, 各学会の大会の開催方法について報告。

6) 技術士育成推進委員会 (5学会)

令和元年度技術士二次試験 (農業部門・植物保護) の合格者は9名であり, 合格者総数が142名になったとの報告があった。

2. 編集関係報告

1) 「日本農業学会誌」掲載原稿数および頁数

巻 号	掲 載 原 稿 数									頁 数	
	投稿論文	解説	受賞論文	実験技術 講座	ミニ レビュー	シンポジア	読み物 シリーズ	ショート レビュー	その他		計
45-1						9	1	4	1 ^a	15	58
45-2	1	1	7		13		1	4	1 ^b	28	106
合 計	1	1	7		13	9	2	8	2	43	164 (+42) ^c

a: 特別記事1編。

b: この他に審査員お礼

c: 大会案内 (27頁) 会則等を掲載 (15頁)。

2) 「Journal of Pesticide Science」掲載原稿数および頁数

巻 号	掲 載 原 稿 数								頁 数
	総説	報文	短報	速報	技術資料	受賞論文	その他	計	
45-1	1	3		1				5	44
45-2	2	4		3		1	1 ^a	11	80 (+6) ^b
45-3		3	1			5		9	66
45-4	1	4		2	1		4 ^c	12	77 (+6) ^d
合 計	4	14	1	6	1	6	5	37	267 (+12)

a: Acknowledgments. b: Instructions for authors.

c: Erratum, Contents of Volume, Keyword Index, Author Index. d: Instructions for authors.

3) 論文賞

候補1件を, 学会賞受賞者選考委員会に推薦した。

する編集規定の改定が承認された。農業誌は引き続き冊子体を刊行。

4) その他

- (1) JPS Vol. 47, No. 1 (2022) より冊子体を廃止することを常任評議員会に提案し承認され, 評議員会にて関連

- (2) 受付論文数 (2020年): 和文1編, 英文99編 (掲載否50編)
- (3) 学会誌インパクトファクター (2019年): 1.101
- (4) 電子ジャーナル掲載論文へのアクセス状況 (2020

年)：月平均約11286件のダウンロード(2019年：8501件)

- (5) JPS Vol. 46, No. 1 (2021) から論文のタイトルページをリニューアル。
- (6) JPS Vol. 46, No. 1 (2021) を Insect Growth Regulator の特別号として発行。

3. 渉外・企画関係報告

1) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー：新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、参加者の健康や安全に配慮して開催中止とした。

2) 農薬科学研究奨励金

農薬科学研究に対する研究奨励金を令和2年度は以下の3件の研究に対して交付した。

- (1) 泉津 弘佑 氏(滋賀県立大学環境科学部)：新規殺菌剤ターゲットとして見出したタンパク質プレニル化機構の中心因子 Geranylgeranyl transferase の分子遺伝学的研究
- (2) 太田 広人 氏(崇城大学生物生命学部)：昆虫チャミン受容体に対する殺虫性精油のアロステリック様作用に関する研究
- (3) 宮崎 翔 氏(慶應義塾大学理工学部)：ワラビー萎縮症の病原物質の同定

3) 学術小集会

- (1) 農薬残留分析研究会(第43回)：オンラインWeb開催(拠点：(一財)残留農薬研究所、茨城県常総市)。「農薬残留分析に係る最近の話題」をテーマとしてシンポジウム講演3題、特別講演1題、ポスター発表11題、精度管理に関するセミナー4題の発表が行われた。参加者は131名であった。(R2.11.5~6)
- (2) 農薬製剤・施用法研究会(第40回)：R2.10.15~16に横浜市にて開催予定であったが、次年度に延期。
- (3) 農薬環境科学研究会(第38回)：R2.10.29~30にアリソンホテル神戸(神戸市中央区)において、「植物による農薬の吸収・移行・代謝」をテーマとして開催予定であったが、8月下旬に1年間の延期を決定した。
- (4) 農薬生物活性研究会：4月に開催を予定していた第37回農薬生物活性研究会シンポジウムは中止とし、予定の講演のうち演者の協力の得られた4題についてオンラインで情報提供を行った。(R2.9.18)
- (5) 農薬デザイン研究会(第35回)：R2.10.30に京都市にて開催予定であったが、開催を延期した。
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会(第28回)：2021年に延期。

- (7) 農薬バイオサイエンス研究会(第18回)：大阪府立大学(大阪府堺市)において第45回大会との共催で「生体機能の根幹とその制御」をテーマとして4題の講演を企画した。新型コロナウイルスの影響で大会が中止となり、みなし開催となった。

4) 学術小集会以外の研究会等

- (1) 2019年度日本農学会シンポジウム(加盟学会として参加)：オンライン開催(R2.10.3)
- (2) 第48回構造活性相関シンポジウム(協賛)：オンライン開催(R2.12.10~11)

5) 国際会議等派遣研究者への渡航費補助

なし。

6) その他

4. 日本農薬学会賞受賞者選考委員会報告

1) 奨励賞、業績賞(研究、技術)

評議員ならびに学術小集会委員長より推薦された奨励賞2課題、業績賞(研究)3課題、業績賞(技術)1課題について慎重公正なる選考を行った結果、次の6課題を各賞の候補と決定した。

【奨励賞】

安部 潤 氏(住友化学株式会社)

「薬物動態的アプローチによる農薬のヒト安全性評価に関する研究」

伊藤 虹児 氏(農研機構農業環境変動研究センター)

「放線菌PD653株によるヘキサクロロベンゼンおよびペンタクロロフェノールの好氣的脱塩素機構に関する研究」

【業績賞(研究)】

石原 亨 氏(鳥取大学)

「イネ科植物における二次代謝が関与した防御機構の解明」

仲下 英雄 氏(福井県立大学)

「植物生理機能を制御する農薬の作用機構に関する研究」

番場 伸一 氏(三井化学アグロ株式会社)

「農薬の標的分子同定と薬剤抵抗性機構に関する計算科学研究」

【業績賞(技術)】

大竹 貴光 氏(産業技術総合研究所)、鎗田 孝 氏(茨城大学)

「国際基準に対応した認証標準物質の開発と技能試験の実施」

2) 論文賞

編集委員会より推薦された論文について慎重公正なる審査を行い、候補を決定した。

「High temperatures promote the uptake of hydrophobic pollutants by *Cucurbita pepo* via altered gene expression levels of major latex-like proteins」

Hideyuki Inui, Nonoka Katte, Junya Goto, and Aya Iwabuchi (Biosignal Research Center, Kobe University, 1-1 Rokkodaicho, Nada-ku, Kobe, Hyogo 657-8501, Japan.), Vol. 45, No. 2, pp. 75-80 (2020)

5. 令和3年度日本農薬学会奨励賞、業績賞、論文賞の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農薬学会奨励賞、業績賞、論文賞各候補について、評議員の投票により授賞が決定した。

6. 令和3・4年度日本農薬学会役員選挙

日本農薬学会選挙管理委員会の管理のもと令和3・4年度日本農薬学会役員選挙を実施し、当選者を決定した。投票率は28.9%であった。会長から推薦され評議員会において承認された役員を加え、令和3・4年度日本農薬学会会長、副会長、監事および評議員が決定した。

7. 名誉会員の推挙および終身会員・顧問の承認

1) 名誉会員

会則第7条1項により、安藤 哲 氏、中村 幸二 氏が推挙された。

2) 終身会員の承認

会則第7条2項により、浅利 健二 氏、上山 功夫 氏を終身会員に推薦し、評議員会において承認された。

3) 顧問の承認

会則第16条により、内田又左衛門 氏、田中啓司 氏を顧問に指名し、評議員会において承認された。

8. その他

1) 会則の改定（評議員会（R3.3.8）にて総会への付議を承認）

改定前	改定後
（令和2年4月30日改定） 第8条 名誉会員および終身会員を除く会員は、次の年会費を前納しなければならない。 1 正会員（年額） 8,000円 2 学生会員（年額） 2,000円 3 海外会員（年額：円建て）5,000円（ただし、学生であることを書面にて証明できる者は2,000円とする） 4 維持会員（1口年額）100,000円 5 団体会員（年額） 10,000円 6 購読会員（年額） 10,000円 付則 本会則は令和2年4月30日から施行する。	（令和3年3月8日改定） 第8条 名誉会員および終身会員を除く会員は、次の年会費を前納しなければならない。 1 正会員（年額） 10,000円 2 学生会員（年額） 2,000円 3 海外会員（年額：円建て）5,000円（ただし、学生であることを書面にて証明できる者は2,000円とする） 4 維持会員（1口年額）100,000円 5 団体会員（年額） 7,000円 6 購読会員（年額） 7,000円 付則 本会則は令和4年1月1日から施行する。

2) 細則の改定（評議員会（R3.3.8）にて承認）

改定前	改定後
（平成30年1月1日改定） 第8条 本会は、原則として年1回大会を開催する。その場所、時期、方法などは常任評議員会で協議し、評議員会の承認を得て決定する。 付則 本細則は、平成30年1月1日から施行する。	（令和3年3月8日改定） 第8条 本会は、原則として年1回大会を開催する。その場所、時期、方法などは常任評議員会で協議し、評議員会の承認を得て決定する。ただし、その変更について緊急を要する場合は、会長は常任評議員会の議を経てこれを行ない、後日評議員会の承認を求めなければならない。 付則 本細則は、令和3年4月1日から施行する。

3) 規定の改定

日本農薬学会編集規定（平成24年3月13日改定）の改定（評議員会（R3.3.8）にて承認）

改定前	改定後
（平成24年3月13日改定、平成25年1月1日実施） 日本農薬学会編集規定 17. 原則として、日本農薬学会誌は毎年2回、2月と8月の20日に発行し、 <u>Journal of Pesticide Science</u> は毎年4回、2月、5月、8月、11月の20日に発行する。 18. <u>Journal of Pesticide Science</u> においては、1号と2号を合冊して5月20日に、3号と4号を合冊して11月20日に発送する。ただし、掲載論文はウェブ上（電子版）で逐次公開する。	（令和3年3月8日改定、令和4年4月1日実施） 日本農薬学会編集規定 17. 日本農薬学会誌は毎年2回、2月と8月の20日に発行し、 <u>発行</u> する。 18. <u>Journal of Pesticide Science</u> は、毎年4回、2月、5月、8月、11月の20日に発行し、ウェブ上で公開する。ただし、掲載論文は逐次公開する。

投稿規定 (H31.3.10 改定) の改定 (評議員会 (R3.3.8) にて承認)

改定前 (H31.3.10 改定)

- (1) この規定は、日本農薬学会編集規定第19項のうちの投稿論文のためにこれを定める。(新規定 (1))
- (2) 論文投稿者は原則として本会の会員に限る。ただし、共著者はその限りではない。また、非会員でも規定の掲載料を支払う場合は、投稿を受け付ける。(修正して新規定 (2))
- (3) 投稿論文は農薬および広くその周辺領域に関する報文 (original article), 短報 (note), 速報 (short communication), 技術資料 (technical report), および総説 (review article) とする。(投稿細則に規定) その内容は原稿受付日において他に印刷公表されていないか、他誌に投稿していないものに限る。(加筆修正して新規定 (8))

報文は独創的な研究で、それ自身独立して価値ある結論あるいは事実を含むもの、短報は、たとえば、限られた部分の発見や新しい実験方法など、報文としてはまとまらないものであっても報告する価値のあるもの、速報は内容が独創的で重要な発見または結論を含み、それを承認するに足るデータを備え、とくに他に優先して迅速に掲載する意義があるもの、また、技術資料は既知の方法による実験ならびに調査の結果または統計などをまとめたものとする。総説は関連諸分野の今日的な話題の解説とし、投稿に関してはあらかじめ編集委員会の承諾を受けるものとする。(投稿細則に規定)

- (4) 原稿はオンライン投稿によって送付すること。
オンライン投稿ができない環境の場合、日本農薬学会編集事務局に問い合わせること。投稿論文は本投稿規定および別に定める投稿細則あるいは Instructions for Authors に従い簡潔にまとめること。これに反する場合は受け付けられないことがある。なお、原稿受付日は投稿原稿が本事務局によって受付処理された日とする。(投稿細則に規定)
- (5) 速報を希望するときは、その理由書を原稿に添付しなければならない。(「速報」を廃止、項目を削除)
- (6) 引用文献に印刷中の論文、および本誌へ投稿中の論文がある場合にはそれらを添付のこと。なお、編集事務局からの要求があった場合は、その他の参考資料も提出しなければならない。(投稿細則に規定)
- (7) 投稿原稿の長さは、図表などを含め刷り上がりで、報文および技術資料は原則として6ページ以内、短報および速報は3ページ以内とする。(投稿細則に規定) これを超えた場合は超過ページ代 (1ページにつき15,000円) を申し受ける。(新規定 (4))

- (8) 図ならびに写真はそのまゝ製版に使用できるものにする。また、カラー頁の使用は実費を申し受ける。なお、電子版におけるカラー写真の使用は無料とする。写真、図が多数のときには製版費用の実費を申し受けることがある。(投稿細則に規定)
- (9) 著者 (非会員) は、掲載された論文1編につき、掲載料として50,000円を支払うものとする。ただし、会員はこれを無料とする。(加筆修正して新規定 (3))
- (10) 校正は原則として初校に限り著者が行う。その際は単に誤植の訂正にとどめ、文章および内容の変更を行わないこと。ただし、常任編集委員会が認めた場合に限り、著者による実費負担のもとに許可することがある。(新規定 (6))
- (11) 別刷を希望する場合は50部単位とし、希望部数に応じて別刷代を申し受ける。(項目削除)
- (12) 印刷後に重大な誤りを発見したときは、その旨編集事務局に申し出るとともに、訂正記事記載のための原稿を事務局に送付すること。訂正原稿は常任編集委員会の議を経て、「訂正」として本誌に掲載することがある。掲載のための実費は原則として著者より申し受けるものとする。(新規定 (7))
- (13) 会誌の掲載論文等の著作権は本学会に帰属する。論文等の掲載決定後、著者は著作権譲渡書の提出を求められる。著作権譲渡後、著者は当該論文の取下げはできない。(新規定 (5)) 掲載論文等の一部、または全部を転載その他の方法で利用しようとするときは、学会事務局から転載許可を得るものとする。(オープンアクセス化に伴い削除)
- (14) 生命倫理：動物を用いた研究は、研究が行われた地域の定める諸法令 (例えば、平成18年環境省告示第88号「動物実験の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」) を遵守して遂行されたものでなければならない。また、ヒトを対象にした研究は、ヘルシンキ宣言 (The World Medical Association: ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則) に則り、倫理上の配慮ならびにインフォームド・コンセントを得たうえで遂行されたものである必要がある。編集委員および編集委員長は、必要に応じ、動物およびヒトを対象にした研究の詳細情報の提出を著者に求めることができるものとする。(新規定 (9))

改定後 (R3.3.8 改定)

- (1) この規定は、日本農薬学会細則第6条に基づきこれを定める。日本農薬学会編集規定第19項に定める投稿論文の作成及び投稿については、本規定に従うこと。投稿論文を除く論文及び記事の作成、並びに投稿については、編集事務局の指示に従うこと。

-
- (2) 投稿は原則として本会の会員に限る。ただし、規定の掲載料を支払う場合、非会員からの投稿を受け付ける。
 - (3) 著者は、掲載された論文1編につき、掲載料として50,000円を支払うものとする。ただし、筆頭著者（First author）若しくは責任著者（Corresponding author）が会員の場合、又は編集委員長が執筆依頼した非会員著者に対しては、これを無料とする。
 - (4) 投稿論文の種別、原稿様式、刷り上がりページ制限については、投稿細則及びInstructions for Authorsに別に定める。日本農薬学会誌に対する投稿論文は、本投稿規定および投稿細則に従い、Journal of Pesticide Scienceに対する投稿論文は本投稿規定およびInstructions for Authorsに従い、簡潔にまとめること。これに反する論文原稿は受け付けないことがある。また、定められた刷り上がりページ数を超える投稿論文には超過ページ代（1ページにつき15,000円）を申し受ける。
 - (5) 日本農薬学会編集規定第19項に定める会誌の掲載論文等の著作権は本学会に帰属する。論文等の掲載決定後、著者は著作権譲渡書の提出を求められる。著作権譲渡後、著者は当該論文の取下げはできない。
 - (6) 校正は原則として初校に限り著者が行う。その際は単に誤植の訂正にとどめ、文章および内容の変更を行わないこと。ただし、常任編集委員会が認めた場合に限り、著者による実費負担のもとに許可することがある。
 - (7) 印刷後に重大な誤りを発見したときは、その旨編集事務局に申し出るとともに、訂正記事掲載のための原稿を事務局に送付すること。訂正原稿は常任編集委員会の議を経て、「訂正」として本誌に掲載することがある。掲載のための実費は原則として著者より申し受けるものとする。
 - (8) 執筆倫理：著者が、同じ内容の研究成果を複数の学術誌に投稿することは、許されない。即ち、過去に発表された原稿、投稿時に既に他の学術誌に投稿している原稿の投稿は許されない。また原稿投稿後は、日本農薬学会誌編集事務局による掲載可否に関する決定の前に、同一内容の原稿を他へ投稿してはならない。なお、却下された論文または取り下げた原稿を再投稿することは差し支えない。
 - (9) 生命倫理：動物を用いた研究は、研究が行われた地域の定める諸法令（例えば、平成18年環境省告示第88号「動物実験の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」）を遵守して遂行されたものでなければならぬ。また、ヒトを対象にした研究は、ヘルシンキ宣言（The World Medical Association：ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則）に則り、倫理上の配慮並びにインフォームド・コンセントを得たうえで遂行されたものである必要がある。編集委員および編集委員長は、必要に応じ、動物およびヒトを対象にした研究の詳細情報の提出を著者に求めることができるものとする。
-

II. 会計報告

収支計算書

令和 2年 1月 1日から令和 2年12月31日まで

日本農業学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会 費 収 入	15,877,000	15,634,000	243,000
正 会 員 会 費 収 入	7,800,000	7,680,000	120,000
学 生 会 員 会 費 収 入	145,000	108,000	37,000
海 外 会 員 会 費 収 入	60,000	45,000	15,000
団 体 会 員 会 費 収 入	770,000	755,000	15,000
購 読 会 員 会 費 収 入	202,000	146,000	56,000
維 持 会 員 会 費 収 入	6,900,000	6,900,000	0
会 報 刊 行 収 入	1,467,000	992,100	474,900
頒 布 収 入	37,000	40,000	△ 3,000
広 告 料 収 入	30,000	30,000	0
著 者 負 担 金 収 入	1,400,000	922,100	477,900
事 業 収 入	26,738,000	4,937,814	21,800,186
大 会 運 営 収 入	10,521,000	3,863,000	6,658,000
学 術 小 集 会 運 営 収 入	14,997,000	959,014	14,037,986
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 収 入	1,220,000	115,800	1,104,200
雑 収 入	143,000	130,660	12,340
預 金 利 息 収 入	3,000	2,743	257
雑 収 入	140,000	127,917	12,083
事業活動収入計	44,225,000	21,694,574	22,530,426
2. 事業活動支出			
会 報 刊 行 費 支 出	10,270,000	7,723,242	2,546,758
旅 費 交 通 費 支 出	300,000	120,400	179,600
通 信 運 搬 費 支 出	10,000	8,782	1,218
消 耗 品 費 支 出	10,000	0	10,000
印 刷 製 本 費 支 出	7,800,000	5,783,408	2,016,592
編 集 費 支 出	1,500,000	1,180,885	319,115
学 会 誌 送 料 支 出	650,000	629,767	20,233
総 会 ・ 大 会 費 支 出	8,650,000	3,777,187	4,872,813
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 支 出	1,270,000	147,300	1,122,700
学 術 小 集 会 費 支 出	14,800,000	945,934	13,854,066
H P 管 理 費 支 出	1,300,000	875,550	424,450
学 会 賞 関 係 費 支 出	500,000	468,134	31,866
学 術 交 流 費 支 出	300,000	212,800	87,200
国 際 学 術 交 流 費 支 出	1,000,000	0	1,000,000
農 業 学 科 学 研 究 奨 励 金 支 出	1,500,000	1,500,000	0
男 女 共 同 参 画 支 援 費	150,000	0	150,000
選 挙 管 理 費 支 出	220,000	220,000	0
事 業 運 営 費 支 出	1,950,000	368,660	1,581,340
会 議 費 支 出	550,000	48,960	501,040
旅 費 交 通 費 支 出	1,400,000	319,700	1,080,300
管 理 費 支 出	4,425,000	3,976,184	448,816
旅 費 交 通 費 支 出	50,000	1,000	49,000
通 信 運 搬 費 支 出	300,000	133,268	166,732
消 耗 品 費 支 出	150,000	147,141	2,859
事 務 管 理 費 支 出	3,265,000	3,265,000	0
印 刷 費 支 出	50,000	0	50,000
外 部 監 査 管 理 費	160,000	154,274	5,726
雑 支 出	450,000	275,501	174,499
事業活動支出計	46,335,000	20,214,991	26,120,009
事業活動収支差額	△ 2,110,000	1,479,583	△ 3,589,583
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特 定 資 産 取 崩 収 入	2,500,000	0	2,500,000
国際学術交流基金 取崩収入	1,000,000	0	1,000,000
寄付基金 取崩収入	1,500,000	0	1,500,000
投資活動収入計	2,500,000	0	2,500,000
2. 投資活動支出			
固 定 資 産 取 得 支 出	0	313,500	△ 313,500
投資活動支出計	0	313,500	△ 313,500
投資活動収支差額	2,500,000	△ 313,500	2,813,500
III 財務活動収支の部			
財務活動収入計	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	390,000	1,166,083	△ 776,083
前期繰越収支差額	4,044,203	4,044,203	0
次期繰越収支差額	4,434,203	5,210,286	△ 776,083

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、仮払金、未払金、前受金及び預り金を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	8,366,603	8,588,286
未 収 金	666,000	785,200
仮 払 金	850,500	850,500
合 計	9,883,103	10,223,986
未 払 金	131,900	162,700
前 受 金	5,707,000	4,850,000
預 り 金	0	1,000
合 計	5,838,900	5,013,700
次期繰越収支差額	4,044,203	5,210,286

貸借対照表

令和 2年12月31日現在

日本農薬学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	8,588,286	8,366,603	221,683
未 収 金	785,200	666,000	119,200
仮 払 金	850,500	850,500	0
流動資産合計	10,223,986	9,883,103	340,883
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
積立調整基金	12,224,379	12,224,379	0
国際学術交流基金	14,385,042	14,385,042	0
寄付基金	6,264,117	6,264,117	0
特定資産合計	32,873,538	32,873,538	0
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	303,050	0	303,050
その他固定資産合計	303,050	0	303,050
固定資産合計	33,176,588	32,873,538	303,050
資産合計	43,400,574	42,756,641	643,933
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	162,700	131,900	30,800
前 受 金	4,850,000	5,707,000	△ 857,000
仮 受 金	1,000	0	1,000
流動負債合計	5,013,700	5,838,900	△ 825,200
負債合計	5,013,700	5,838,900	△ 825,200
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	38,386,874	36,917,741	1,469,133
正味財産合計	38,386,874	36,917,741	1,469,133
負債及び正味財産合計	43,400,574	42,756,641	643,933

正味財産増減計算書
令和 2年 1月 1日から令和 2年12月31日まで

日本農業学会			
科 目	当年度	前年度	(単位:円)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	15,634,000	15,863,492	△ 229,492
正会員会費	7,680,000	7,791,352	△ 111,352
学生会員会費	108,000	142,000	△ 34,000
海外会員会費	45,000	58,250	△ 13,250
団体会員会費	755,000	779,890	△ 24,890
講読会員会費	146,000	192,000	△ 46,000
維持会員会費	6,900,000	6,900,000	0
会報刊行収益	992,100	1,533,550	△ 541,450
頒布収益	40,000	89,500	△ 49,500
広告料収益	30,000	30,000	0
著者負担金益	922,100	1,414,050	△ 491,950
事業収益	4,937,814	26,559,531	△ 21,621,717
大会運営収入	3,863,000	8,833,274	△ 4,970,274
学術小集会運営収入	959,014	16,402,017	△ 15,443,003
学術・技術支援委員会収入	115,800	1,324,240	△ 1,208,440
雑収益	130,660	469,483	△ 338,823
預金利息	2,743	2,917	△ 174
雑収益	127,917	466,566	△ 338,649
経常収益計	21,694,574	44,426,056	△ 22,731,482
(2) 経常費用			
会報刊行費	7,723,242	11,277,406	△ 3,554,164
旅費交通費	120,400	265,510	△ 145,110
通信運搬費	8,782	9,662	△ 880
消耗品費	0	108	△ 108
印刷製本費	5,783,408	8,831,513	△ 3,048,105
編集費	1,180,885	1,548,014	△ 367,129
学会誌送料	629,767	622,599	7,168
総会・大会費	3,777,187	4,738,085	△ 960,898
学術・技術支援	147,300	1,150,665	△ 1,003,365
学術小集会費	945,934	15,768,380	△ 14,822,446
H P 管理費	875,550	868,650	6,900
学会賞関係費	468,134	401,855	66,279
学術交流費	212,800	764,700	△ 551,900
国際学術交流費	0	2,432,070	△ 2,432,070
農業科学研究奨励金	1,500,000	1,500,000	0
選挙関連費	220,000	0	220,000
事業運営費	368,660	2,151,910	△ 1,783,250
会議費	48,960	620,410	△ 571,450
旅費交通費	319,700	1,531,500	△ 1,211,800
管理費	3,986,634	4,322,139	△ 335,505
旅費交通費	1,000	75,820	△ 74,820
通信運搬費	133,268	259,968	△ 126,700
消耗品費	147,141	86,551	60,590
事務管理費	3,265,000	3,262,000	3,000
減価償却費	10,450	0	10,450
印刷費	0	48,600	△ 48,600
外部会計監査費	154,274	151,874	2,400
雑費	275,501	437,326	△ 161,825
経常費用計	20,225,441	45,375,860	△ 25,150,419
評価損益等調整前当期経常増減額	1,469,133	△ 949,804	2,418,937
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,469,133	△ 949,804	2,418,937
2. 経常外増減の部			
経常外収益計	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,469,133	△ 949,804	2,418,937
一般正味財産期首残高	36,917,741	37,867,545	△ 949,804
一般正味財産期末残高	38,386,874	36,917,741	1,469,133
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
III 正味財産期末残高	38,386,874	36,917,741	1,469,133

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	0	0	12,224,379
国際学術交流基金	14,385,042	0	0	14,385,042
寄付基金口	6,264,117	0	0	6,264,117
合 計	32,873,538	0	0	32,873,538

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	(0)	(12,224,379)	(0)
国際学術交流基金	14,385,042	(0)	(14,385,042)	(0)
寄付基金口	6,264,117	(0)	(6,264,117)	(0)
合 計	32,873,538	(0)	(32,873,538)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期減少額	当期末残高
ソフトウェア	313,500	10,450	10,450	303,050
合 計	313,500	10,450	10,450	303,050

財産目録

令和2年12月31日現在

日本農薬学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金 額
(流動資産)	現金 預金	手元保管	27,066
		普通預金	7,223,705
		三井住友銀行白山支店	3,042,236
		ジャパンネット銀行	2,888,573
		SMBC信託銀行	1,292,896
		振替貯金	1,337,515
		未収金	785,200
		仮払金	850,500
	総会・大会 農薬		850,000
Suica デポジット		500	
流動資産合計		10,223,986	
(固定資産)	特定資産	積立調整基金	12,224,379
			三井住友銀行白山支店定期
		国際学術交流基金	14,385,042
			三井住友銀行白山支店定期
	寄付基金	ジャパンネット銀行定期	1,500,000
		三井住友銀行白山銀行定期	6,264,117
			5,964,117
		SMBC信託銀行	300,000
	その他固定資産		ソフトウェア
		固定資産合計	
資産合計		43,400,574	
(流動負債)	未払金 前受金 正会員 学生会員 海外会員 団体会員 仮受金		162,700
			4,850,000
			4,792,000
			28,000
			20,000
			10,000
			1,000
流動負債合計		5,013,700	
負債合計		5,013,700	
正味財産		38,386,874	

III 会計監査報告

令和2年度日本農薬学会の事業報告および決算について監査の結果、的確であることを認めます。

令和3年2月9日

監事 内田 又左衛門 印
佐藤 幸治 印

IV 議事

1. 令和2年度事業報告および決算の承認

2. 令和3年度事業計画および収支予算（案）の承認

1) 会誌の発行：日本農薬学会誌 第46巻，第1号～第2号 Journal of Pesticide Science (JPS) 誌 第46巻，第1号～第4号

2) 第46回大会の開催：R3.3.8～10，東京農工大学（東京都府中市）に大会実行組織委員会の本部をおくオンライン開催。

3) 日本農薬学会賞および論文賞の授与

4) 専門委員会などの開催

- (1) 編集委員会
- (2) 常任編集委員会
- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 第47回大会組織委員会
- (6) 将来計画委員会
- (7) 学術・技術支援委員会
- (8) 農薬科学研究奨励金交付者審査会議（一次および二次）

5) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー 2021を開催予定（開催方式，開催時期等の詳細未定）
- (2) 農薬の安全性等に関する講師派遣（予定）

6) 学術小集会，講演会等の開催

- (1) 農薬残留分析研究会：第44回農薬残留分析研究会を

ホテルフジタ福井（福井県福井市）において開催。（R3.11.18～19）

- (2) 農薬製剤・施用法研究会：第40回農薬製剤・施用法シンポジウムをはまぎんホール ヴィアマーレ（神奈川県横浜市）において開催（開催方法未定）。（R3.10.14～15）
- (3) 農薬環境科学研究会：第38回農薬環境科学研究会をアリストンホテル神戸（兵庫県神戸市）において開催。（R3.10.28～29）
- (4) 農薬生物活性研究会：第38回農薬生物活性研究会シンポジウムをオンライン開催。（R3.4.23）
- (5) 農薬デザイン研究会：第35回農薬デザイン研究会をメルパルク京都（京都市）において開催。オンライン開催・ハイブリッド開催の可能性あり。（R3.11.12）
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会：第28回シンポジウムを11月頃に開催。（開催方法および開催地未定）
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会：第19回農薬バイオサイエンス研究会を東京農工大学（東京都府中市）において開催。（第46回大会との共催，オンデマンド）（R3.3.10），第20回研究会を東京大学（東京都文京区）において開催。（開催時期ならびに形式未定）

7) 農薬科学研究奨励金の交付

- (1) 阿部智早絵 氏（（株）化学分析コンサルタント）：農薬散布作業者の薬剤曝露評価および新規曝露評価手法の開発
- (2) 草島 美幸 氏（東京大学）：植物免疫抑制剤NAS1が植物のストレス耐性や生育に与える影響の解析
- (3) 高木 和広 氏（農研機構）：結晶スポンジ法による農薬等分解代謝産物の迅速構造決定

8) 令和3年度収支予算(案)

収支予算書

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

(単位:円)

科 目	令和3年度年度予算案	令和2年度年度予算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会 費 収 入	15,573,000	15,877,000	△ 304,000
正 会 員 会 費 収 入	7,544,000	7,800,000	△ 256,000
学 生 会 員 会 費 収 入	112,000	145,000	△ 33,000
海 外 会 員 会 費 収 入	45,000	60,000	△ 15,000
団 体 会 員 会 費 収 入	770,000	770,000	0
購 読 会 員 会 費 収 入	202,000	202,000	0
維 持 会 員 会 費 収 入	6,900,000	6,900,000	0
会 報 刊 行 収 入	767,000	1,467,000	△ 700,000
頒 布 収 入	37,000	37,000	0
広 告 料 収 入	30,000	30,000	0
著 者 負 担 金 収 入	700,000	1,400,000	△ 700,000
事 業 収 入	20,270,000	26,738,000	△ 6,468,000
大 会 運 営 収 入	4,350,000	10,521,000	△ 6,171,000
学 術 小 集 会 運 営 収 入	15,100,000	14,997,000	103,000
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 収 入	820,000	1,220,000	△ 400,000
雑 収 入	113,000	143,000	△ 30,000
預 金 利 息 収 入	3,000	3,000	0
雑 収 入	110,000	140,000	△ 30,000
事業活動収入計	36,723,000	44,225,000	△ 7,502,000
2. 事業活動支出			
会 報 刊 行 費 支 出	8,470,000	10,270,000	△ 1,800,000
旅 費 交 通 費 支 出	300,000	300,000	0
通 信 運 搬 費 支 出	10,000	10,000	0
消 耗 品 費 支 出	10,000	10,000	0
印 刷 製 本 費 支 出	6,000,000	7,800,000	△ 1,800,000
編 集 費 支 出	1,500,000	1,500,000	0
学 会 誌 送 料 支 出	650,000	650,000	0
総 会 ・ 大 会 費 支 出	2,680,000	8,650,000	△ 5,970,000
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 支 出	960,000	1,270,000	△ 310,000
学 術 小 集 会 費 支 出	14,900,000	14,800,000	100,000
H P 管 理 費 支 出	900,000	1,300,000	△ 400,000
学 会 賞 関 係 費 支 出	500,000	500,000	0
学 術 交 流 費 支 出	300,000	300,000	0
国 際 学 術 交 流 費 支 出	1,000,000	1,000,000	0
農 業 科 学 研 究 奨 励 金 支 出	1,500,000	1,500,000	0
男 女 共 同 参 画 支 援 費	0	150,000	△ 150,000
選 挙 管 理 費 支 出	0	220,000	△ 220,000
事 業 運 営 費 支 出	1,600,000	1,950,000	△ 350,000
会 議 費 支 出	700,000	550,000	150,000
旅 費 交 通 費 支 出	900,000	1,400,000	△ 500,000
管 理 費 支 出	4,150,000	4,425,000	△ 275,000
旅 費 交 通 費 支 出	0	50,000	△ 50,000
通 信 運 搬 費 支 出	300,000	300,000	0
消 耗 品 費 支 出	150,000	150,000	0
事 務 管 理 費 支 出	3,190,000	3,265,000	△ 75,000
印 刷 費 支 出	50,000	50,000	0
外 部 監 査 管 理 費	160,000	160,000	0
雑 支 出	300,000	450,000	△ 150,000
事業活動支出計	36,960,000	46,335,000	△ 9,375,000
事業活動収支差額	△ 237,000	△ 2,110,000	1,873,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特 定 資 産 取 崩 収 入	500,000	2,500,000	△ 2,000,000
積 立 調 整 金 取 崩 収 入	0	0	0
国 際 学 術 交 流 基 金 取 崩 収 入	0	1,000,000	△ 1,000,000
寄 付 基 金 取 崩 収 入	500,000	1,500,000	△ 1,000,000
投資活動収入計	500,000	2,500,000	△ 2,000,000
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	500,000	2,500,000	△ 2,000,000
当期収支差額	263,000	390,000	△ 127,000
前期繰越収支差額	5,210,286	4,044,203	1,166,083
次期繰越収支差額	5,473,286	4,434,203	1,039,083

3. 会則第8条の改定の承認

4. 名誉会員の承認

会則第7条1項により、安藤 哲 氏、中村 幸二 氏を
推挙する。

5. 日本農業学会第47回大会（2022年）について

第47回大会を2022年3月上旬に岡山大学（岡山県岡山市）
において開催することが評議員会において承認された。

6. その他

役 員 (2021.4.1～2023.3.31)

会 長	塩月 孝博（島根大）		
副 会 長	松田 一彦（近畿大）	橋本 良子（東京都農林財団）	三谷 晃（日本曹達）
顧 問	内田又左衛門（緑安協）	佐藤 清（元残農研）	田中 啓司（近畿大）
	寺岡 徹（元 東京農工大）		
監 事	佐藤 幸治（元玉川大）	三富 正明（法政大）	
評 議 員	青山 博昭（残農研）	赤松 美紀（岡山大）	浅見 忠男（東京大）
	天野 昭子（岐阜県農技セ）	新井 清司（三井化学アグロ）	有江 力（東京農工大）
	飯島 和昭（残農研）	石原 亨（鳥取大）	石原 悟（農水省）
	一ノ瀬礼司（三井化学アグロ）	井藤 和人（島根大）	伊藤 晋作（東京農大）
	稲生 圭哉（農研機構）	乾 秀之（神戸大）	岩船 敬（農水消安セ）
	上野 英二（愛知県衛生研）	王 敬銘（秋田県大）	大川 哲生（クミアイ化学）
	太田 広人（崇城大）	大野 竜太（北興化学）	大山 和俊（残農研）
	岡澤 敦司（大阪府大）	尾松 正人（石原産業）	片木 敏行（住友化学）
	片山 新太（名古屋大）	加藤 康仁（日本化薬）	門岡 織江（住化テクノ）
	河合 清（クミアイ化学）	北村 恭朗（東京農工大）	木戸 庸裕（北興化学）
	木村 幸夫（日本エコテック）	清田 洋正（岡山大）	桑原 重文（東北大）
	小林 正樹（日産化学）	小原 裕三（農研機構）	小森 岳（住友化学）
	斎藤 勲（東海コープ）	坂 真智子（残農研）	坂本 典保（住友化学）
	佐野 宏己（三井化学アグロ）	島村 裕二（化安研）	島本 文子（高知県農技セ）
	清水 力（クミアイ化学）	謝 肖男（宇都宮大）	須戸 幹（滋賀県大）
	巢山 弘介（島根大）	清家 伸康（農研機構）	関野 景介（SDS バイオテック）
	曾根信三郎（日植防）	高木 和広（農研機構）	高橋 宣好（OAT アグリオ）
	滝川 浩郷（東京大）	田中 千尋（京都大）	田村 廣人（名城大）
	塚本 正満（石原産業）	富ヶ原祥隆（住友化学）	富澤 元博（東京農大）
	富田 啓文（日本農薬）	中川 好秋（京都大）	仲下 英雄（福井県大）
	中谷 昌央（クミアイ化学）	中村 英光（東京大）	永山 敏廣（明治薬科大）
	夏目 雅裕（東京農工大）	成田伊都美（埼玉県農研セ）	西松 哲義（日本農薬）
	西脇 寿（愛媛大）	野下 浩二（秋田県大）	波多野連平（ニッソーフィールド）
	濱口 洋（元日本農薬）	日野 智和（日本農薬）	平井 憲次（相模中研）
	平瀬 寒月（三井化学アグロ）	平田 晃一（日本曹達）	福地 俊樹（アグロカネショウ）
	藤田 真弘（全農）	藤村 真（東洋大）	藤村 佳樹（バイエル）
	星野 敏明（元バイエル）	町谷 幸三（日本農薬）	松本 宏（筑波大）
	丸 論（化学分析コンサル）	三田 猛志（日産化学）	水口智江可（名古屋大）
	宮川 恒（京都大）	宮下 正弘（京都大）	三芳 秀人（京都大）
	村井 正俊（京都大）	望月 証（兵庫県農水総セ）	元場 一彦（日本農薬）
	森島 靖雄（シンジェンタ）	森本 正則（近畿大）	森山 裕充（東京農工大）
	矢吹 芳教（大阪環農水総研）	藪崎 隆（全農）	山内 聡（愛媛大）
	山本 幸洋（千葉県農研セ）	與語 靖洋（植調協会）	横田 篤宜（農薬工業会）
	横山 昌雄（植調協会）	米山 弘一（愛媛大）	渡邊 裕純（東京農工大）

常任評議員

総務担当： 中村 英光 水口智江可 村井 正俊 森山 裕充
財務担当： 富ヶ原祥隆 元場 一彦
編集担当： 伊藤 晋作 高木 和広
渉外・企画担当： 西脇 寿 平瀬 寒月 矢吹 芳教

名 誉 会 員

安部 浩 安藤 哲 上杉 康彦 梅津 憲治 大川 秀郎 佐々木 満 正野 俊夫
高橋 正三 谷口 栄二 中津川 勉 中村 幸二 西村 勁一郎 深海 浩 前田 泰三
丸茂 晋吾 宮本 徹 山口 勇 山本 出 山本 廣基 米山 勝美 若林 攻

終 身 会 員

浅利 健二 安部八洲男 飯田 格 石井 康雄 岩本 毅 白井 健二 上山 功夫
越中 俊夫 遠藤 武雄 大原 詔雄 岡田 至 加藤 肇 川端 成彬 木村 俊夫
下松 明雄 倉橋 良雄 桑原 保正 小林 裕子 近内 誠登 佐藤 元昭 実光 穰
穴戸 孝 渋谷 成美 城島 輝臣 菅原 敏夫 杉山 浩 鈴木 敏雄 武居 三郎
竹内 安智 竹柴 英雄 竹田 勇 谷中 国昭 千野 義彦 辻 孝三 辻 英明
土屋 秀士 遠山 輝彦 富田 文夫 永江 祐治 成瀬 功 馬場 洋子 濱田 昌之
早川 充 林 眞守 堀 伸二郎 堀 正大 本田 博 益子 道生 俣野 修身
松山 宣明 水谷 純也 本山 直樹 薬丸 薫 横山佐太正 吉田 茂男 米澤 泰治

会 員 動 静

(令和2年12月1日～令和3年3月31日)

入会

正会員

長谷川久和 胡 文倩 老木紗予子 梶 基浩
栗田 和典 小木曾真樹 井原 章吾 有澤美枝子
中村 新 榊原 風太 SUMINTO, Syaefudin
北野 智行 上田 紘司 飯田祐一郎 篠原 剛
山本 敦司

学生会員

岡本 一央 吉川 拓馬 早川 優介 森 聡一朗
NGUYEN, Hai Doan 倉田 堯直 山村 円香
末永真友菜 津守千亜希 松川 奈央 川田紘次郎
大沼 彩香 石川 萌 小川 岳斗 奥村 文乃

海外会員

SUSHEEL, Singh JUNG, Sunyo (受付順)

退会

名誉会員

浅川 勝

終身会員

奥 八郎 赤塚 尹巳

正会員

藤井 哲伸 平島 明法 腰岡 政二 前野真一郎
三宅 秀芳 村岡 悦子 西澤陽一郎 坂元 法久

鈴木 健 田中 利治 和田 健夫 渡邊 幸喜
山中 龍治 横内 敬司 熊丸 昌也 小林 陽子
永富 康司 種 和彦 境 潤悦 新井 宏和
高石日出男 山本 敦司 武内 晴香 古屋 昌義
阿久津和彦 内田 幸生 白水健太郎 辻村 和也
徳本 健人 原田 恭輔 高松 亮太 富永 純司
濱本恵実里 越智ゆかり 杉浦 正昭 松林 善彦
高鳥 尚彦 坂田 恵 鈴木 翔太 宮本 秀範
田巻 初 上野 達 中村 裕治 神田 勝浩
木村 忠史 前田 秀一 岡本 智裕 高垣真喜一
稲生 栄子 遠西 正範 上田 成次 田澤 英克
長尾 淳也 西森 俊英 姜 凱 西ヶ谷有輝
戸田 真 越智 良太 伊左治俊策 三反崎拓也
長谷川 琢也 日向 栞 COATS, JOEL R.
Istvan, Ujvary LORSBACH, Beth

学生会員

薬師 葉 竹原 千恵 辻 諄人 松尾 匠馬
松本 紘明 田谷 彬人 舛野 唱吾 棚川 一裕
松原 佳輝 竹内 瑞穂 早川 優介

団体会員

東京農業大学図書館雑誌担当 積水化学工業株式会社
堺市衛生研究所

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議等

2021年

10月

15日(金) 第40回農薬製剤・施用法シンポジウム

主催：日本農薬学会，農薬製剤・施用法研究会
協賛：農業食料工学会，日本雑草学会，粉体工学会，日本化学会，高分子学会，色材協会，日本油化学会

形式：オンライン

URL：http://pssj2.jp/committee/formulation.html

11月

12日(金) 第35回農薬デザイン研究会

主催：日本農薬学会 農薬デザイン研究会
方法：オンライン

URL：http://pssj2.jp/committee/design.html

18日(木)～19日(金) 第44回農薬残留分析研究会

主催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会
会場：The Grand Yours Fukui [〒910-0005 福井市大手3丁目12-20]

URL：http://pssj2.jp/committee/residue.html

※COVID-19感染症の影響により，Web開催となる可能性あり

(日付未定) 第19回農薬バイオサイエンス研究会(植物化学研究会と共催)

主催：植物化学研究会，日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会

※詳細未定

2022年

3月

7日(月)～9日(水) 日本農薬学会第47回大会

主催：日本農薬学会
会場：岡山大学津島キャンパス [〒700-8530 岡山市北区津島中1丁目1-1]

※詳細未定

学会主催会議などの詳細

第35回農薬デザイン研究会 開催案内

日時：令和3年11月12日(金) 13:30～19:30(懇親会含む)

開催：オンライン

主催：日本農薬学会／農薬デザイン研究会

代表：東京大学大学院 農学生命科学研究科 滝川浩郷

テーマ：新技術が拓く次世代の農薬デザイン

招待講演：

講演1：『天然有機化合物の全合成研究 ～独創的・画期的な合成法の開発～』

横島 聡 (名古屋大学)

講演2：『合成プローブで，生体系でのタンパク質機能を探る』

浜地 格 (京都大学)

講演3：『構造生物学を基盤としたキナーゼ創薬研究』

木下 誉富 (大阪府立大学)

講演4：『殺虫剤オキサゾスルフィルの創製』

野倉 吉彦 (住友化学株式会社)

(プログラムの都合により順番・タイトルは変更になる場合があります)

参加登録：

詳細は6月中旬にホームページに掲載.

http://pssj2.jp/committee/design.html

第44回農薬残留分析研究会 開催案内

※本年度もCOVID-19感染症の影響により，Web開催となる可能性があります。

その為，一般参加および研究発表の申し込み受け付けは7～9月の予定です。

主催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会

日時：令和3年11月18日(木)～11月19日(金)

場所：The Grand Yours Fukui (ホテルフジタ福井3F・4F)

URL：http://pssj2.jp/committee/residue.html

令和3年11月18日13:00～：

テーマ「農薬残留分析に係る最近の話題」

招待講演：「農業用ドローンを用いた最新の農薬散布について(仮題)」

株式会社ナイルワークス 柳下 洋

「パッシブサンプリング法を用いた河川水中の残留農薬分析について(仮題)」

大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹 芳教
「花粉・花蜜残留試験について(仮題)」

日本植物防疫協会 荒井 雄太

「作物代謝をはじめとする農薬の各種運命試験について(仮題)」

残留農薬研究所 増田 稔

特別講演：「福井県の農業に関する話題(仮題)」

福井県植物防疫協会 高岡 誠一

※他，ポスターセッションおよび企業展示

令和3年11月19日(金) 9:00～：

受賞者講演，各種セミナー，エクスカージョンを企画中

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内

日本農薬学会では、精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています。2003年に初版を発行以来、好評を博して改訂を重ね、現在最新版が改訂4版となっております。改訂4版では、前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ、最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで、初学者の方にも、より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました。また、携行性を高めるために軽量化を図りました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として、さらに、食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても、農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです。定価は3,000円です（送料別）。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて、以下の日本農薬学会事務局に氏名、所属、メールアドレス、電話番号、送付先住所、購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい。また、メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので、振込みをお願いします。詳細は、学会ホームページもご参照ください。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました。学会ホームページ上（http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html）で公開していますので、ご参照ください。

講師派遣のご案内

日本農薬学会では、一般市民や農業、教育関係の方々に農薬に関する知識や理解を深めていただくことを目的として、専門家を講師として派遣しています。派遣講師が行う講義の内容は、食料生産、作物保護、食品安全、環境影響、薬剤抵抗性、農薬製剤・施用法、農薬をめぐる諸問題等、ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので、遠慮なくご相談ください。本活動にご興味ございましたら、学会ホームページ（http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html）をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。

【予告】農薬科学研究奨励金のご案内

日本農薬学会では、農薬科学研究の支援を目的として、特に競争的資金の獲得が難しい研究課題や研究者の方々にも利用して頂けるよう農薬科学研究奨励金の交付を行っています。今年度は令和4年度交付分の募集を9～11月に予定していますので、応募をお考えの皆様には是非前もってご準備下さい。詳細な応募要件等は、後日正式に決定次第、ご案内いたします。

過去の採択課題：http://pssj2.jp/inside/past_grant.html

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@pssj2.jp